

平成29年度 エネルギーに関する年次報告（エネルギー白書2018） 正誤表

本書において、掲載内容に誤りがございました。ご迷惑をおかけしましたこととお詫びするとともに、以下のとおり訂正させていただきます。

頁	該当箇所	修正内容	
		誤	正
278	(9) 1文目	旧一般電気事業者及び旧卸電気事業者等の行う中小水力開発に対し、建設費の一部を補助することにより、水力の初期発電原価を引き下げ、開発を促進しました。	大幅な発電コスト低減を実現する可能性が高い太陽電池や周辺機器等を対象として技術開発を行いました。また、性能評価等の共通基盤技術の開発、様々な太陽光パネルに対応する低コストリサイクル・リユース技術開発にも取り組みました。
182	図表 214-1-6	<p>図表 214-1-6: 1952年から2015年の発電量（億kWh）の推移。水力（水色）が主要な電源であり、2009年までには揚水発電も含まれていた。2010年以降は原子力（緑色）の割合が増加している。2015年の総発電量は10,412億kWhである。</p>	<p>図表 214-1-6: 1952年から2015年の発電量（億kWh）の推移。水力（水色）が主要な電源であり、2009年までには揚水発電も含まれていた。2010年以降は原子力（緑色）の割合が増加している。2015年の総発電量は10,412億kWhである。</p>

※1952年から2009年の水力発電量に揚水発電量が含まれていなかったため、揚水発電量を含めた数値に修正。